

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
領域表現 Domain representation		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育内容総論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
表現指導法				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ	講義棟3階	月、水、木、金		授業中に指示します
授業の概要				
子どもの表現は生活や遊びの経験の中から生まれる。乳幼児の表現に係る保育内容の変遷を知り、子どもの日々の表現に共感して豊かな表現を引き出すことを目指していく。様々な表現活動の考案や保育カリキュラムをどのように具現化し、子どもたちに経験させるのか、新教育要領の領域「表現」のねらいと内容を踏まえた豊かな表現者としての保育者の在り方を考える。				
授業の目標				
①新幼稚園教育要領における「表現」のねらいと内容について、具体的に述べるができるようにする。 ②日常生活や表現活動を通して、「表現」の考え方と実例を関連付けて考察することができるようにする。 ③保育者になる意識を高め、保育現場で活かせる保育カリキュラムを計画して保育内容の指導ができるようにする。 ④保育者としてどのように子どもの表現を引き出すのか、どのような方法や援助が適しているのかを考案することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で行う。テキストを主とするが、映像の活用と実例に基づいて子どもの表現を捉え、豊かな育ちへ導く方法と援助を考える。領域「表現」のねらいと内容を踏まえて、表現活動の指導法と援助の仕方について考案する。				
学習の成果(学習成果)				
①「表現」のねらいと内容を把握し、表現活動へ展開するために必要な保育カリキュラムを考案することができる。 ②日常生活や保育の様々な活動において、子どもの表現を捉えて、個々の表現を引き出すことができる。 ③保育の活動において、教材の選び方や指導方法、年齢に応じた援助ができ、総合的な活動に展開することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	子どもの表現を考える 授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意点			
第2回目	子どもの表現をどう捉えるのかー乳幼児の子どもの表現ー			
第3回目	領域「表現」と他の領域との関連性ー幼児の終わりまでに育てほしい姿ー			
第4回目	領域「表現」のねらいと内容 就学前の保育カリキュラムと領域「表現」			
第5回目	子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割ー子どもの表現を受け止めるー			
第6回目	子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割ー保育者自身の表現性ー			

第7回目	子どもの育ちと表現 - 子どもの心を表現する保育者の関わり -
第8回目	生活の中の表現 - 乳幼児の表現を育てることとは -
第9回目	乳幼児の発達と表現 - 様々な発達と表現 -
第10回目	乳幼児の発達と表現 - コミュニケーションとしての表現 -
第11回目	表現活動の環境構成と表現を支える保育者の役割
第12回目	保育の中の表現活動 - 音の発見と音楽のはじまり -
第13回目	保育の中の表現活動 - 身体、言語を中心とする表現活動 -
第14回目	保育の中の表現活動 - 体験が生む描画、造形活動 -
第15回目	表現活動から見られる子どもの表現と保育者の表現技術
事前・事後学習	教育実習において子どもの表現について考え、報告書の作成をする。定期試験対策として、テキストや資料を復習する。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	保育者になるという自覚を持ち、表現者として授業態度を評価する
レポート		
調査報告書	30%	教育実習（観察）の中で気づいた子どもの表現について考え、自身が捉えた表現を報告する
小テスト		
試験	50%	筆記試験を実施する
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

保育内容領域表現 著者：堂本真実子（わかば社）

履修上の留意点・ルール

授業中の居眠り、携帯電話、飲食等は授業参加態度として減点する。保育者としての自覚を持って授業に参加すること。